金閣寺

原作：三島由紀夫
脚色：佐溝　貴史

［登場者］
A　「私」役、アンドウ
B　「もう１人の男」役、イノウエ
C　「ウイコ」役、ウカジ

この芝居は、三島由紀夫の「金閣寺」が舞台化された芝居のＤＶＤの中で、役者たちが副音声として演技などの解説をしているという前提で進む。

舞台上で起こること （役者）	オーディオ・コメンタリー （音響）
【１場】 ABC が舞台上に立っている。 緊張感のある音響と照明。 A　　金閣を焼かなければならぬ B　　金閣を焼かなければならぬ C　　金閣を焼かなければならぬ A　　金閣を焼かなければならぬ B　　金閣を焼かなければならぬ C　　金閣を焼かなければならぬ A　　金閣を焼かなければならぬ ABC、カクカクとした面妖な動き。 ３人、「金閣寺」の主人公の吃（ども）りを表現している。	
【２場】 A　　父は、私によく、金閣のことを語った。 父によれば、金閣ほど美しいものは地上になく、またその字面、その音韻から、私の心が描き出した金閣は、途方もないものであった。	（１場の終わりあたりから） A　　あー。あー。どうも、金閣寺をごらんの皆さん、こんにちは。 「私」をやってます、アンドウです。このDVD を見ているということは、私はこの世にはもう。 B　　いるけどね。なに、これはお前のダイイン

Bが特徴的な動きをする。

C　私には、吃りがあった。
吃りはいうまでもなく私と外界との間に一つの障碍（がい)を置いた。
吃りが、最初の音（おん）を発するために焦りに焦り、やっと身を引き離したときには、もう遅い。
私にふさわしく思われる、鮮度の落ちた現実、半ば腐臭を放つ現実が横たわっているばかりであった。

B　家から２軒へだてた家に、美しい娘がいた。有為子という名である。

C　有為子！

A　ある晩、有為子の体を思って、暗鬱な空想に耽ってろくに眠ること　のできなかった私は、暗いうちから床を抜け出し、運動靴を穿いて夏の暁闇の戸外に出た。

私は暁闇の道をまっすぐに走った。

部落の外れに１本の大きなケヤキがある。

私は根方に身を隠し部落のほうから有為子の自転車が来るのを待った。

自転車は音もなく滑ってきた。

私は自転車の前に走り出た。自転車は危うく急停車をした。

C　そのとき私はじぶんが石に化してしまったのを感じた。

A　言葉がおそらくこの場を救う只一つのもグメッセージなの？
あ、もう一人の男、あ、コレです。をやってますイノウエです

A　このDVDを見ているということは、あなたはDVDを買ってくれたということなのでしょう

B　そりゃそうだ

C　女のウカジです
でね、今回コメンタリーということで、こうやって出演者の我々が　見どこらやら裏話やらを粛々と語っていくわけですけれども

B　別に粛々とじゃなくてもいいけどね

(一同軽く笑い)

A　さて、本編見てみましょうか

B　すっかり忘れてたね。あ、ほらアンドウしゃべってるよ

A　あ、ココねー、練習したわー
「(Aのセリフを言う)」

B　いいよ言わなくて。両方から聞こえて訳わかんないよ。

A　あ、そうですか。

B　うん、てかココは何のシーンだっけ

C　ういこですよ、ういこっていう女のシーン

A　ウンコ？

C　ちょっと

B　でたよ。俺もそう思ったよ

C　なんでよ。で、まあういこっていう幼少期に出会った女性が今後もその尾を引いていくことになるわけですけれどもね

B　ウンコが尾を引くわけですね

A　ははは

C　違います
お！ちょっと、ここ緊張感のあるとこじゃないの？？

B　あ、そうだそうだ、前半の見せ場ですね

A　そうだね、じゃちょっと静かに見てみまし

のだろうといつものように私は考えていた。 B　私特有の誤解である。 C　「なによ、へんな真似をして。吃りのくせに」 B　寝ても覚めても、私は有為子の死をねがった。 私の恥の立会人が、消え去ってくれることを願った。 私が本当に太陽へ顔を向けられるためには、世界が滅びなければならぬ。 C　数ヵ月後、この呪いが成就することになる。	ょうか（しばらく舞台に注目している間） B　(間があいたら)ぷー A　何噴出してんだよ B　や、ちょっと間に、、、 C　あ、ほらほら、来ますよ！ A　初号機、完全に沈黙。後、暴走。 B　しないから！！　エヴァじゃないんだから！ C　ははは B　もう、何言ってんだよ！ A　や、でも結局沈黙して暴走するわけでしょ？ C　まあ確かにね B　そうだけど！ C　あ、有為子死にましたね A　死んだねー B　おいおい！
【３場】 ABC、面妖な動き。 ３人、「金閣寺」の主人公の吃（ども）りを表現している。 A は、「カク、カク、カク」と３回体を動かす。 A が「カク、カク、カク」と３回体を動かす B が「カク、カク、カク」と３回体を動かす C が「カク、カク、カク」と３回体を動かす	C　でね、たしかこのシーンがねー、あ、そう、コレ！ コレが吃りを表現してるんだそうですよ A　あ、このカクカクが？　そうだったの？知らんかった B　そうらしいよ、この繰り返しが吃りを表現するんだって、じゃあどういうつもりでやってたんだよ A　や、全然分かんないからさ、「ゆ・き・お」ってやってた BC　(笑い) 以後、3 人笑いながら、「みしま、の」とか言いながら A　「ゆ・き・お」 B　「ゆ・き・お」 C　何それ。「ゆ・き・お」 B　そうとしか見えなくなっちゃったじゃんか

	A　これこのあとも何回か出てくるんだよね B　わはは ３人　はー
【４場】 C　父の遺言どおり、私は京都へ出て、金閣寺の徒弟になった A　『金閣よ。やっとあなたのそばに来て住むようになったよ今すぐでなくてもいいから、いつかは私に親しみを示し、私にあなたの秘密を打明けてくれ。あなたの美しさは、もう少しのところではっきり見えそうでいて、まだ見えぬ。 私の心象の金閣よりも本物のほうがはっきり美しく見えるようにしてくれ 又もし、あなたが地上で比べるほど美しいのなら、なぜそれほど美しいのか、何故美しくあらねばならないのかを語ってくれ』 （以下のセリフは、音に反応して動く花のおもちゃのような動きをしながら） B　「何だ、君か」 C　鶴川というその少年には昨夜紹介されたばかりであった B　「お父さんがなくなったんだってねえ」 C　「うん」 B　「君が金閣がとても好きなのは、あれを見ると、お父さんを思い出すからなのかい？たとえばお父さんが金閣がとても好きだった、というようなわけでお父さんが亡くなって、ずいぶん悲しかったろうねえ。それで、君、さびしそうなところがあるんだねえ。ゆうべはじめて会ったときからそう思ったよ」 C　「なにもかなしいことあらへん」	A　えーっと、ココはどのシーンですかね B　あー、金閣寺の徒弟になったとこですね C　ついに金閣に来ましたよ、と で思いを伝えてますね A　金閣ラブ、ですからね B　気持ち悪いね C　気持ち悪いね A　別に俺はセリフだから言ってただけだよ B　あー、由紀夫がね A　ゆ、き、お C　(笑い)いいよ、言わなくて B　あーここらへん、僕のセリフですよ （３人は舞台に注目している） B　あー、言ったなあ「お父さんが亡くなったんだってねえ」 A　「なんで知ってんだよ！！」 B　なんだよ急に！！ C　はははは！！！ B　そんなこと言ってねえし！ C　でですねー、この会話のときの動きがですねー ・・・変だよね A　変だよね B　何かを表現してるって言ってたけど、あの音が聞こえると踊る花みたいだよね C　あー、それだ。

B　「それなら、ほかにもっと悲しいことでもあったのかな」 C　「何や、わからへん」 B　「へぇ、変わってるんだなあ(笑う)」 A　私自身にとってはそれは疑問でもなんでもない。私の感情にも吃音があったのだ。 A　私の感情はいつも間に合わない。	B　まじめにやってるとバカみたいだな・・ （以降、しばらく B,C で会話をしている） A　あー、ちょっと聞いて！俺の決めゼリフ B　え？ A　くるよくるよー C　（くしゃみ！！） A　あー！！！ 俺の決めセリフだったのに！！！ なにくしゃみしてんだよ！ B　ははははは C　ごめんごめん、ははは A　ふざけんなよー (ひとしきり笑う) ３人　ふう
【５場】 ABC、面妖な動き。 ３人、「金閣寺」の主人公の吃（ども）りを表現している。	(間) B　・・・つまんないな C　うん A　何飽きてんだよ
【６場】 A　ある挿話が思い出される。 電休日の一日、私は鶴川と一緒に南禅寺へ行った。座敷の中には緋毛氈（ひもうせん）が鮮やかに敷かれていた。 若い女が座っている。 C　「あれはいったい生きてるんやろか」 B　「僕も今そう思っていたんだ。人形みたいだなあ」 A　その時奥から若い陸軍士官が現れた彼は正坐して、女に対した。	B　朝ごはん何食べた？ A　え、その話今する必要ある？ B　や、だって俺、お前が朝何食べたかすっげえ興味ない A　じゃなんで聞いたんだよ B　え？ C　おっと、カンペですよ。えーっと 金閣寺について知っていること B　金閣寺ねえ……、金閣寺についてなんか知ってる？

しばらくふたりはじっと対坐していた。 女は男の前に茶をすすめる。男はなかなかに茶を喫しない。 男が何か言っている。 女は姿勢を正したまま、俄かに襟元をくつろげた。 私の耳には固い帯裏から引き抜かれる絹の音がほとんど聞こえた。 白い胸が現れた。 士官は暗い深い色の茶碗を捧げ持って、女の前へ膝行（しっこう）した。 私はそれを見たとはいわないが、鶯色の茶の中へ白い暖かい乳がほとばしり、滴りを残して納まるさま、静寂な茶のおもてがこの白い乳に濁って泡立つさまをありありと感じた。 男はそのふしぎな茶を飲み干した。 あくる日も、又次の日も私は執拗に思った。 B　確かにあの女はよみがえった有為子その人だと。	A　足利 B　単語で答えんなよ A　足利よし(もごもご) B　足利、誰？ A　足利、よしみ B　誰だよ！なんでそこまできて最後の「つ」が出てこないんだよ！ C　よしみっ B　何で「つ」を小さくしたんだよ！　勢い良くなっただけじゃんか！ A　てんどう C　よしみっ A,C　(笑い) （しばらく笑っている） B　いいよもう B　って今度は俺がシメのセリフをいうところですよ A　順番だったよねこれ C　（くしゃみ、わざとらしく長い） A　またかよ！ B　うおーい！　今絶対わざとだったろ？！何してくれてんだよ！ C　ごめんごめん、わざとじゃないよ
【７場】 ABC、面妖な動き。 ぴょんぴょん飛び回っている。	C　あ、このシーン、ほら、いつもと違いますよ A　あ、ああそうだね B　飛び回ってますね C　このシーンですけどね、何の意味もないそうですよ A　あ、ないんだ B　えええー、あんなに激しく飛び回ってんのに？
【８場】 B　戦争がおわった。 敗戦の衝撃、民族的悲哀などというものから、金閣は超絶していた。	A　って今度ウカジが決めゼリフじゃないの？ B　あ、ほんとだ、ぜってーじゃましてやろう

昔から自分はここに居り、未来永劫ここにいるだろう、という表情を とりもどしていた。 C　（とても大きな声で）金閣と私との関係は絶たれたんだ！！！！！	ぜ C　ちょっとー、やめてよー ねー、ほんとさー A,B　（くしゃみ、ちいさめ） A　声でかっ！！！ B　なんでお前あんなに声でかかったんだよココ！ C　ははは、気合入りすぎちゃってたかなあ
【９場】 ABC、面妖な動き。	C　はー、えーっと。次回公演の話でもしましょうか 実はそろそろ次回公演のことを考えてる時期なんですよね A　あーそうなんですよね。いま、コレを収録してるのが「金閣寺」終わってね、次何やろうかなってね 何かやりたいこと考えた？ B　あー、「もしドラ」の舞台化って考えたんだよね C　もしドラ？　もしもドラッカーだったら？ A　何がだよ。ちがうよ、もっと野球のマネージャーが、とかみたいな話だよ なんだっけ、「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーのマネジメントを読んだら」をドラッカーが読んだら。 ちがうか B　ちがうよ 何でそんなにややこしい話にするんだよ。ドラッカーがもう一回読んでどうするんだよ。ほら、あれだよ、「もしもドラッカーが女子高生だったら」 A,C　あー、あー、あー C　企業の役割とはマジ顧客の創造なんですけどー A,B　ははは、いーなーそれ
【１０場】 A　「今後こういうことがあったら寺には置いておかれんから」	C　あ、そういえば私も考えましたよ 「マイケル車掌」っていうね。ほら、電車の車掌さんてさ、指差し確認する

B　決行を急がなければならぬ A　昭和２５年６月２５日。世界が確実に没落し破滅する予感が現実のものとなった C　急がなければならぬ	じゃないですか？　するんですね。 A,B　知ってるよ C　それがね、マイケルなの。こう「ポウ」って。 A　伝わらない伝わらない
【１１場】 ABC、面妖な動き。	B　あ、じゃあじゃあ続編思いついた A　え、俺も C　何 B　え、ほら A,B　ジャネット車掌っていう A　うえー？ B　ま、おっぱい出すだけなんだけど A,B　ははは C　やだー
【１２場】 A　ある日曜の朝、金閣の玄関の前にジープが止まっていた。泥酔している米兵は私を見下ろして蔑むように笑った。 B　私は、「開門前だが、特に案内する」といい、入場料と案内料を請求した。 米兵は、ジープの中に「出て来い」という意味のことを言った。 ジープの踏み台の上へ、細いハイヒールの脚が差し出された C　「ジャアーック、ツー・コールド！ツー・コールド！」 B　女の声は哀切に雪の上に流れた。男は答えなかった。 A　こんな商売の女を私が美しいと感じたのははじめてである。 有為子（微妙に「ウンコ」とも聞こえる）と似ているからではなかった。	A　あ、あとね、「はやおくりびと」 B,C　ははははは A　早送りしちゃう人 C　葬式スピードアップ？ A　そう B,C　わははは はー C　飽きた B　なんだよ C　あれ、このへんまたういこ絡みのシーンじゃないですか？ A　ウンコですね B　だから違うって A　でもウンコって聞こえるよね C　聞いてみる？ C　ほら！　言ったよ A　ちげーよ！

			俺はちゃんと言ったよお前のほうがウンコっぽいじゃんか
B	ひとつひとつちがっていて有為子（さっきよりも、「ウンコ」という発音に近い）に似せないように似せないようにと吟味して描いた肖像のようであった。 そのことが、なにかしら有為子（しっかりと「ウイコ」と発音している。）の記憶にこうしてできた影像の、反抗的な新鮮な美しさを帯びていた	B	え、そんなことないよ、おれはちゃんと言ってるよ！ てか本編のはなししようよ、ウンコじゃなくて
		C	二人ともウンコっぽいよ
		A	や、そんなことないって
C	ただ一点が有為子（確実に、はっきりと「ウンコ」と言っている）に共通していた。 私へ女は目もくれなかったことである。	A	お前は何でそんなにはっきりウンコって言ってるんだ！！
		C	え、言ってないよー
A	案内を続ける私の気付かぬうちに口論が起こっていた。 女が思いっきり米兵の頬を平手打ちにした。 すぐに米兵は追いつき女の真紅な外套の胸倉を掴んでいた。 胸もとを掴んでいた手を軽く離した。女は雪の上に仰向けに倒れた。	A	や、言ったよ、完全に言ってたよ
		A	ココがウンコだとさー、次のセリフ結構やなことになるんだよね
		C	え、あ！ああー
		B	なに微妙にネタバレ
		A	しー
		B	うそお
B	米兵が私を呼び、英語でこういった		
C	「踏め。おまえ、踏んでみろ」 「踏め。踏むんだ」	A	きたー！！
		C	踏め！踏んでみろ！
		A,C	あははは
B	私の足は落ちて、春泥（しゅんでい）のようなやわらかいものを踏んだ それは女の腹だった。女は目をつぶって呻いていた。	A	やわらかいものを踏んだ！
		C	ウンコ！
		B	おい・・
C	「もっと踏むんだ、もっとだ」	A	もっと踏め！
B	私は踏んだ。二度目にはほとばしる喜びに変っていた。	B	本編！(キレる) 本編！
		C	えええ！！
A	これが女の腹だ。 これが胸だ。	A	お前、すげえキレ方するな・・・
		B	お前らさー、そんな適当なことばっかいっ

C　「サンキュー」 ジープは丹念に揺れながら遠ざかった。 A　私の肉体は昂奮していた。	てさー (B、キレてる。A,C はあんまり相手にしない)
【１３場】 ABC、面妖な動き。 C は、がくっと倒れる。A は、C を抱えている。 A　誰かこの子を、助けてください！ B　（袖から）私が助けてあげよう A　あなたは？ B　私は足長おじさんだよ。 B、袖から出てくる。手が異様に長い。 もう１人、全く関係ない役者が出てくる。 A と C を連れて行く。	B　もういいや、早送り！ A　おい！！ B　（早送りする） A　おいなにすんだよ！ B　いいんだよ！もう見たって仕方ねえよ！ （A,B,どたばたする、C 実況中継) C　えーいまリモコンの取り合いをしております A　リモコン返せ！ B　あ！　おい返せ！　って何だこのシーン！ C　せかちゅうじゃん！！ A,B,C （ごくり） C　こんなシーンあった？ A　・・ない B　手ぇ長！！！ 二人出てきた！！ どこ行くんだよ！！！ A　巻き戻すぞ！ なんだったんだ・・・今の。
【１４場】 B　ここから金閣の形は見えない 渦巻いている煙と、天に沖（ちゅう）している火が見えるだけである。 C　木の間（このま）をおびただしい火の粉が飛び、金閣の空は金砂子を撒いたようである B　気がつくと、体のいたるところに火ぶくれや擦り傷があって血が流れていた 手の指にも、さっき戸をたたいたときの怪	A　てあれ、進んじゃった？ C　あー、知らんまに本編進んでんじゃん・・ 手え長いまんまだし・・・ B　金閣もう燃えちゃってる・・・ ごめん・・・ A　えー、まあ、じゃあね、皆様、金閣寺いか

我と見えて血がにじんでいた。 C　ポケットを探ると、小刀と手巾(はんかち)に包んだカルモチンの瓶とがでてきた それを谷底めがけて投げ捨てた B　別のポケットのタバコが手に触れた A　私はタバコを喫(の）んだ B　一仕事を終えて一服している人が良くそう思うように、生きようと私は思った。 終わり	がだったでしょうか。 ごらん頂きありがとうございました B,C　ありがとうございました A　次回公演、えー C　はやおくりびと A　はやおくりびと、もよろしくおねがいします A、C　（ちゃんちゃん、みたいな曲） B　おい！！　そんなマヌケな曲で終わらせんなよ！！　おい！！ 終わり